災害時におけるペット避難の一律化

和洋国府台女子中学校　二年　森　優菜

もし突然、大きな災害が起きて避難しなければならなくなった時、みなさまは大切なペットをどうしますか。

実は今、災害時の避難所でペットをどう受け入れるかという対応が、地域や施設によってバラバラなことが大きな課題になっています。ペットも家族と同じ部屋で過ごせる避難所がある一方で、ケージに入れて外の雨風が当たる場所に置かなければならない避難所や、最悪の場合、動物は一切禁止と受け入れを断られる避難所もあるのが現状です。私は全国どこの避難所に行っても、人とペットが共に安全に過ごせるような共通ルールを一律で決めるべきだと主張します。

私がこう考える理由の一つ目は、人間の命を守るためです。ペットのルールの話なのになぜ人間の命なのかと疑問に思う人もいるかもしれません。しかし、現在の曖昧なルールのせいで、多くの人間の命が危険にさらされているのです。過去の巨大地震や豪雨災害では、避難所にペットを連れていけないからという理由で、危険な自宅に留まったり、狭い車の中での泊まりを続けたりした結果、実際に、熊本地震では、ペットとともに車中泊を選択した飼い主が多く存在しました。その結果、エコノミークラス症候群により重症化して入院した人のうち、約八割が車中泊をしていた避難者だったというデータがあります。飼い主にとってペットは単なる動物ではなくかけがえのない家族です。家族を危ない目に遭わせたくないと思うのは当然の感情です。もし全国一律でペットも人間と同じように安全に避難できるという明確なルールがあれば、飼い主は迷うことなく迅速に避難所へ向かうことができます。つまり、ペットの避難ルールを整えることは、結果として人間の逃げ遅れを防ぎ、多くの命を救うことにつながるのです。

二つ目の理由は、避難所内でのトラブルを防ぎ、秩序を守るためです。現在、

明確なルールがない避難所では、現場の職員や避難者同士の話し合いで対応を決めることが多く、これが大きな混乱を生んでいます。動物が苦手な人やアレルギーを持つ人からすれば、避難所でのペット同伴はストレスです。一方で飼い主側も周りに迷惑をかけているのではないかと強い不安や罪悪感を抱えています。ルールが地域や施設によって一律でないからこそ、前は大丈夫だったのになぜ今回はダメなのかといった不満や対立が生まれるのです。もし、全国どこに行ってもペット専用の隔離スペースを設置したり、飼い主が責任を持って衛生管理を行ったりするなどの、一律の共通ルールが事前に決まっていれば、どうでしょうか。避難者全員が最初からこういう決まりだからと納得し、お互いに配慮し合うことができます。一律化は、動物が好きな人にとっても、嫌いな人にとっても、お互いの権利を守るための「心の防波堤」になるはずです。

もちろん、人間だけでも大変なのに、ペットのことまで手が回らないという意見があることも理解できます。避難所は人間の命を守る場所であり、人間の安全が最優先されるべきだという意見はもっともです。しかし、だからこそ一律のルールによる事前の準備が必要なのです。災害が起きてからパニックの中で考えるのではなく、あらかじめペット連れ避難の専用エリアの確保や、支援物資の分配方法を全国共通の基準として定めておけば、いざという時に現場が混乱することはありません。また、飼い主側にも一律の義務として日頃からしつけやワクチン接種、ゲージに慣れさせることなどを徹底させることができます。ルールの一律化は、決してペットを甘やかすためのものではなく、非常的における社会全体のシステムを円滑に動かすためのものなのです。

現在、日本のペットの飼育数は、十五歳未満の子供の数を上回っていると言われています。全国一律の明確なルール作りを進めることこそが未来の命を救う確かな一歩になると私は思います。